

★安心安全な学校方向性ニュース(保護者のみなさまへ)

令和2年6月8日

保護者様

河内長野市立 西中学校

校 長 松原 澄規

初夏の候、だんだん日差しが暑く感じられるようになってまいりました。西中学校でも、コロナ対策と合わせて熱中症対策にも気を配っている状況です。

平素は、本校学校教育の推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大防止につきまして、去る5月21日の大阪府の緊急事態宣言の解除による学校再開に伴い、分散登校を経て通常授業の実施まで、段階的に登校を促しているところでございます。しかし、全国的な規模で見ますと未だ感染者が確認されていることや確立された治療法やワクチンがないことから、引き続き大阪府全域での感染症拡大防止に向けた取組みが求められているところでございます。

このような中、子どもの学校生活におきましても、新しい生活様式に取り組んでいく中、各授業においても、いわゆる「3密」を避けながら、工夫した学習活動を進めていくところ です。

しかしながら、学習活動の一つである水泳指導に関しましては、更衣場所やプールサイドでの3密は避けられず、指導に当たっては、どうしても、子どもと接触して介助し指導する場面が出てまいります。

さらに、子どもの健康状態全般の把握のための医師による健康診断も、臨時休業のため、延期することとなり、十分な対応が取れないまま、水泳指導を行うことへの危険もござい ます。

このことから、今年度の水泳指導に関しては、市内全小中学校において中止となること が決定されました。

子どもにとって、学校生活に制限がかかり、不自由なことばかりになってしまうことへの危惧もござい ますが、子どもたちへの感染防止を第一義に考え、このような処置を取ら せていただくことになりました。

保護者のみなさまには、どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

校長ミッションがたくさん提出されてきていて、校長先生はうれしい悲鳴をあげています。みんなしっかり考えてくれていて、自分の考えをしっかり持つことや表現することができる人が増えていることを実感しています。また、ここに書かれている友だちの意見を読むことで、みなさんの読むことへの成長にもつながっていることでしょう。教科の学習だけではなかなか身につけられない部分であり、テストだけでは測り切れない部分がここには確実に存在します。私は君たちの生きる力がここで育っていると確信しています。西中学校の生徒のみなさんで、この場所を大事に育てていきましょう。この場所こそが西中プライドのひとつです。

●校長ミッション第3弾

「新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、PCR検査をもっと増やすべきか？」

A君

自分の意見

僕はPCR検査は今のままで良いと思う。確かにPCR検査を増やした方が感染者を早く見つけられると思うが、PCR検査を増やしてしまうと、より多くの人員を確保しなければならないからだ。そうすると、どこから人員を確保するかもめ事が起きたり、批判する人がでてくるかもしれない。そうすると社会がますます混乱していくかもしれない。そうなるのであれば、PCR検査は今のままでよいと思う。

Bさん

自分の意見

PCR検査ができる人材が日本には少ないし、検体をとる医者も不足している状況なので、今のままでよいと思う。ただ、検査数を増やして感染者を把握しないといけないと思うので、抗体検査や抗原検査など、別の方法で、簡単に確実に検査を増やしていくべきだ。

C君

自分の意見

PCR検査は増やすべきだと思う。PCR検査をすることによってコロナに感染しているかしていないかが分かるんだったらどんどんやっていった方がいいと思う。けど、PCR検査は痛いと思うから検査が終わったら「がんばったね」と一言言ってくれるとうれしいかもです。

Dさん

自分の意見

PCR検査を増やす場合のメリットは、新型コロナウイルスに感染しているかどうかの正確な人数がわかることです。正確な人数がわかると、正確な人数がわからないときと比べて、国の判断も変わってくると思うし、感染していない人も危険を感じる人が増えると思います。デメリットは、感染している人がわかればわかるほど医療従事者の人が大変になったり、飲食店の感染防止の対策が求められて、つぶれてしまうお店も多くなります。PCR検査を今のまま続ける場合のメリットは、PCR検査をするときに感染することが少なくなったりすることだと思います。それに対してデメリットは、PCR検査を増やす場合のメリットとは逆で、感染している人数が分からないことだと思います。私の意見は、PCR検査は今のままで、体調をくずしている人たちが、家でゆっくり休みを取り、新型コロナウイルスにかかってしまったと思われる人は、人通りの少ないところを通して、PCR検査を受けることが大切だと思います。

●校長ミッション4

「もし、あなたがスーパーの店長なら、あなたの店で、どんな感染拡大防止対策をとりますか？思いつくままに、箇条書きで答えて下さい」

A君

自分の意見

・アルコール消毒液を設置(入り口付近)。

・常に換気

・レジのところに仕切りを置く

・試食をやめる・「少人数で、できるだけ短い時間で買い物してください」の内容を書いたものを入り口や目立つ場所に貼っておく

・は入れる人数を制限する

Bさん

自分の意見

・セルフレジを増やす

・セルフレジは使った人が消毒してから、次の人にまわす(タッチパネルなど)

・並んでいる人が密にならないようにする

・家で留守番できる年齢の子どもは遠慮してもらおう(できるだけ少人数で)

・品出しの時間をつくる(安心して従業員が品出しできるようにお客さんが入らないようにする)

C 君

自分の意見

- ・レジの店員と店員の間をあける
- ・必ず(店長・店員も含め)入店後や出店前には消毒をすること
- ・客と客同士もあまり密にならないようにする

D さん

自分の意見

- ・2mずつ間隔を取って並ばせる
- ・午前と午後で休憩を取って、その間にできるだけ消毒する。(買い物かごとかに)
- ・マスクをつけることをポスターなどで呼びかける
- ・お客さんとあまり話さない
- ・店員さんにスーパーに入る前に消毒させる

●校長ミッション5

「家庭でできる感染防止対策についてあなたのアイデアを考えてみて下さい。できるだけたくさんアイデアを、箇条書きで答えて下さい」

A 君

自分の意見

- ・外出はなるべく避ける
- ・帰ってきたらすぐお風呂に入る(ウイルスを洗い流す)
- ・買い物は少人数でいく
- ・人ごみを避ける
- ・外出するときはマスク着用
- ・毎日健康状態をチェックする

B さん

自分の意見

- ・料理を個別の皿に盛り、大皿盛りをしない
- ・タオルを共有しない
- ・外出してから帰宅して手洗いうがいをするまでは、何もさわらない。(手すり・ドアノブ・他の人)
- ・できるだけ電話で用事を済まし、直接会わない

C 君

自分の意見

- ・不要な服などは、切り取ってマスクなどをつくる
- ・キッチンやトイレなどは、できるだけ除菌すること
- ・家族だからといって油断して密になるのをさける

D さん

自分の意見

- ・外出をひかえる
- ・もし外出したら手洗いうがいをする
- ・外出するときはマスクをつける
- ・(かぜを引いたら)
- ① マスクをつける
- ② できるだけ部屋にいる
- ③ あまり話さない
- ④ 家から出ない
- ⑤ 熱があったら寝る
- ⑥ 無理をしない

● 自主学習ノート

先日、校長先生のもとに1冊のノートが届きました。そのノートは自主学習ノートと書いてあり、中を見ると、しっかりと勉強してある様子がよくわかる素晴らしいノートでした。プリントもきちんと張られてあり、字も丁寧で、一目で努力の跡がわかる分厚く膨らんだノートでした。このノートは前任の西川校長先生や前前任の堂上校長先生の時代から脈々とつながっている西中独自の自主学習ノートの習慣です。ここに西中学校の「学びの伝統」が引き継がれているのです。もちろん、先輩の校長先生を見習って私もこの「自主学習ノート」の活動を続けていきます。実は今回提出してくれた人のノートにはNo.10とあります。つまりこのようなノートが10冊も仕上がっているのです。自主的な学びに拍手したいと思います。ノートの最後に本人がこう書いてありました。読んでみて下さいね。

コロナの影響で休みとなり、勉強するチャンスだと思っていました。それなのに、学校に行けなくてたいくつで、毎日毎日携帯を見て、一日中ただただと過ごしてしまうのです。「まずは少しでも勉強しよう」と思っても、テレビなどの誘惑に負けて、長続きしませんでした。でも、課題だけは終わらせようと頑張りました。

今回のコロナのことで、学ぶことができたことがたくさんあったと思いました。

※健康がやっぱり大事

※学校で学ぶ大切さ

※今まで当たり前で生活していたことのありがたさがわかりました。
このことを忘れずにこれからの生活過ごしていきたいです。

謙遜して、「だらだら過ごしてしまいます。」と正直な胸の内を書いてくれています。しかし、自主学習ノートを見る限り、すごくまじめに頑張っている様子がよくわかります。校長先生の中学時代と比較すると超花丸です。

しかも、ただ勉強するだけでなく、コロナの生活の中からも、3つの発見に気づき、これからの生活への教訓として生かしていこうと考えています。しっかりと学んでいることがわかります。これこそがまさに自主学習です。

「継続は力なり」という言葉があります。1年間で10冊ものノートを仕上げた努力。しかも、それを続けていく努力。この力は、どの時代・どの世界であっても通用するあなた自身の財産です。

がんばっていきましょう。もちろんこの努力も西中プライドです。

★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

アラブといえば砂漠。砂漠といえばラクダを連想します。アラブでは何頭ものラクダに遭遇しました。家畜として飼育されているラクダ。観光客を乗せるためのラクダ。ラクダレースのラクダ。はたまた我々が野良ラクダと呼んでいた、所有者不明のラクダまで、様々見かけました。

アラブにいるラクダは、コブが一つのヒトコブラクダで、ゴビ砂漠などにいるラクダは、コブが二つのフタコブラクダです。

ラクダは砂漠で生活するのに適した体のつくりをしています。背中のかぶりは栄養分を貯めてあります。

砂漠という過酷な環境でも砂や砂塵から身を守る身体づくりもあります。砂嵐から目を守るため、眉毛は太く、長いまつ毛は2列に生えています。耳も周りに毛がしっかり生えていて守られています。鼻は鼻の内側にも毛が生えている上に、ラクダは鼻の穴を自由に開閉できます。

灼熱の砂漠でも座れるように、ラクダの前足の膝はサポーターをはめたような固い皮がついています。

ラクダの蹄(ひづめ)は小さく、指は2本で、5本あったうちの中指と薬指が残ったものであると考えられています。退化した蹄に代わり、脚の裏は皮膚組織が膨らんでクッション状に発達しています。これは歩行時に地面に対する圧力を分散させて、脚が砂にめり込まないようにするための構造です。砂地においては、蹄よりもこちらの構造が適しているためです。

体力に関しては、持久力や耐久力に優れており、重い荷物を乗せて長距離を移動するときなどに重宝されています。時速40kmのスピードで走ることができ、短距離であれば時速60kmのスピードで走ります。

ラクダは砂漠での荷物の運搬目的で昔から重宝されてきました。

また、他にも乳や肉、被毛も人間に重宝されています。

過酷な砂漠で生きるラクダのミルクは、栄養価が高く雑菌が少ない事でも知られています。イスラム圏において古来乳用動物として飼育されてきたものはラクダ、ヒツジ、ヤギです。

家畜としては、紀元前3000年ごろから、つまり今から5000年ぐらい前から飼われていました。

アラブでは、よく駐在員同士の贈り物やお土産として買われる、Patchi (パッチ) というレバノン発の有名な高級チョコレートブランドがあるのですが、そのチョコレートには、ラクダのミルクが使われているのもあるようです。我が家はそんな高級品を買う機会はなかったのですが、贈り物としてもらって食べた感じでは、この世で食べたチョコレートで一番おいしかったと個人的には思っています。ただしあくまで「何でもおいしく食べる」私個人の感想です。

アラブで有名なものとして、ラクダレースがあります。このラクダレース、騎手は体重が少ないほど有利なので少年の場合が多かったのですが、安全面を配慮して近年はロボット騎手に変わっているようです。砂煙を上げてものすごいスピードで走る直進レースは迫力満点です。

